

医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト

第2回フォーラム 「真実説明指針が普及しはじめた」



<http://www.stop-medical-accident.net/>

医療事故問題対応の基盤 としての真実説明指針」

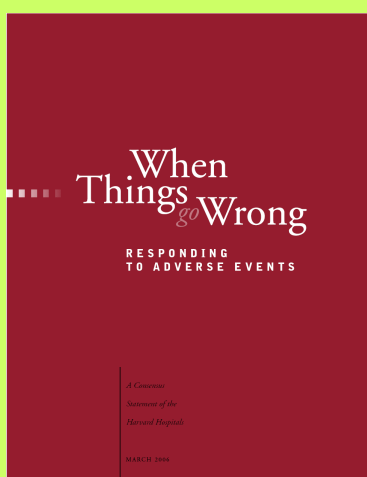
2008年6月14日

プロジェクトリーダー

(東京大学 医療政策人材養成講座 特任准教授)

埴岡 健一

悪い事態が起こったとき： 有害事象への対処法』



- When Things Go Wrong— Responding to Adverse Events—A consensus Statement of the Harvard Hospitals (悪い事態が起こったとき：有害事象への対処法～ハーバート大学医学部関連病院コンセンサス文書)
- 『ハーバート大学 真実説明 謝罪マニュアル』(日本語翻訳仮題)

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

2

エッセンス

- 医療事故(有害事象)が起こったら、過誤性があるかどうか不明の段階でも、すぐに分かる範囲で起こったことを説明し、患者サイドの心情を尊重して遺憾の意を表明する。そして、組織的に対応し、逐次分かったことは説明する。過誤があったと分かったときは、それを詳細に説明し、謝罪する。適切な専任担当者が関与すると同時に、病院トップもリーダーシップをもって指揮する。個人の問題としてではなくシステムエラーとして認識し、根本要因分析をする。そして、再発防止策を取り、それも患者サイドに説明する。必要な補償をする。事故当事者となった者にもケアを行い、ときには休職や配置転換などの対応をし、トラウマなしに職場に復帰できるようにする。

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

3

ルシアン・リーブ氏コメント



- 医師は100年以上も謝ってはだめだと教育されてきた。今でのほとんどの臨床現場が『謝るな』と教えている。間違いを認めると訴えられるというのだが、それはまったくの“神話”に過ぎない。事實はむしろ逆で、患者や家族が何かおかしいと気づいているのに、医師が何の問題もなりふりをするから、怒りを覚えて訴訟をする。間違いがあったならば率直に認めて、責任をとって、必要ならば金銭的な補償もすべきだ」

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

4

真実説明と紛争減少 米国事例 1

- レキシントン退役軍人病院
- 1987年 情報開示方針採用
- かつて退役軍人病院内で医療過誤損害賠償金額が最高クラスだったが、下位4分の1群に入るまで減少した。

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

5

真実説明と紛争減少 米国事例2

- ミガン大学病院
- 2002年 真実説明 謝罪方針を採用。訴訟や示談の件数が262件から114件に減少。年間300万ドルだった係争関連費用が100万ドルに減少。紛争解決所要時間は20.7カ月から9.5カ月に短縮された。

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

6

真実説明と紛争減少 米国事例3

- 損害保険会社COPIC (コロラド州デンバー)
- 医師賠償責任保険商品において、真実説明と謝罪を含む裁判外紛争処理プログラムを提供
- 2174件の医療事故に適用、512件に支払い、1件当5680ドル、紛争化52件、23件解決、3件が高額賠償(4万ドル、7万ドル、30万ドル) 訴訟ゼロ。
- 上昇していた医師賠償責任保険料は据え置きレベルに

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

7

米国謝罪法 (州)

- Apology法
- 医療現場で謝罪したことが、法廷では過失責任を認めた証拠には採用されない
- 約30州が制定済み

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

8

米国謝罪法 (連邦政府)

- 連邦政府レベルのApology法
- 全米医療過誤開示補償 (MEDiC) 法案
- H.クリントン議員とB.オバマ議員の共同提案
- 患者安全医療品質局設置、有害事象データ蓄積 被害者補償救済 真実説明と謝罪の義務付 謝罪が法廷において過失証拠として採用されないことを規定

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

9

真実説明 謝罪方針の効果

- 有害事象を受けた人が真に求めていること。
- ユニバーサルな医療倫理としてなすべきこと。
- 医療従事者にとっても短期的、長期的メリットがある。

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

10

医療事故 :真実説明 謝罪プロジェクト

- ハーバート指針の日本語翻訳版をウェブで提供
- 賛同者を募集
- 2008年5月末現在、約100人が賛同

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

11

先行実践者のコメント

- すでに真実説明 謝罪方針を実践してきたという病院長らも存在
- 「ただちにこれを行っても訴訟は絶対に増加しないと断言できる」
- 「おじぎの仕方ではなく、“心”の問題。表面的な対応では逆効果」

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

13

全社連の取組み

- グループ内での事例集の作成
- 全社連版の真実説明指針の作成
- 研修会の開催
- 新指針の実践を開始

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

14

全社連指針の内容

- 真実説明を導入
- 共感表明謝罪と責任承認謝罪を明確化
- 病院管理者の責任を明確化
- 病院内研修などを強化
- メディエーションを導入
- 過誤の (が疑われる) 場合の医療費請求の保留
- …など

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

15

対応指針格差と均てん化

- 病院の設立主体や病院群ごとに違う対応方針や対応マニュアル
- 病院長ごとに異なる方針や対処法
- 事例ごとにぶれる対処
- 医療事故対応指針の均てん化が必要
(均てん化=あまねく質が高いこと)

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

16

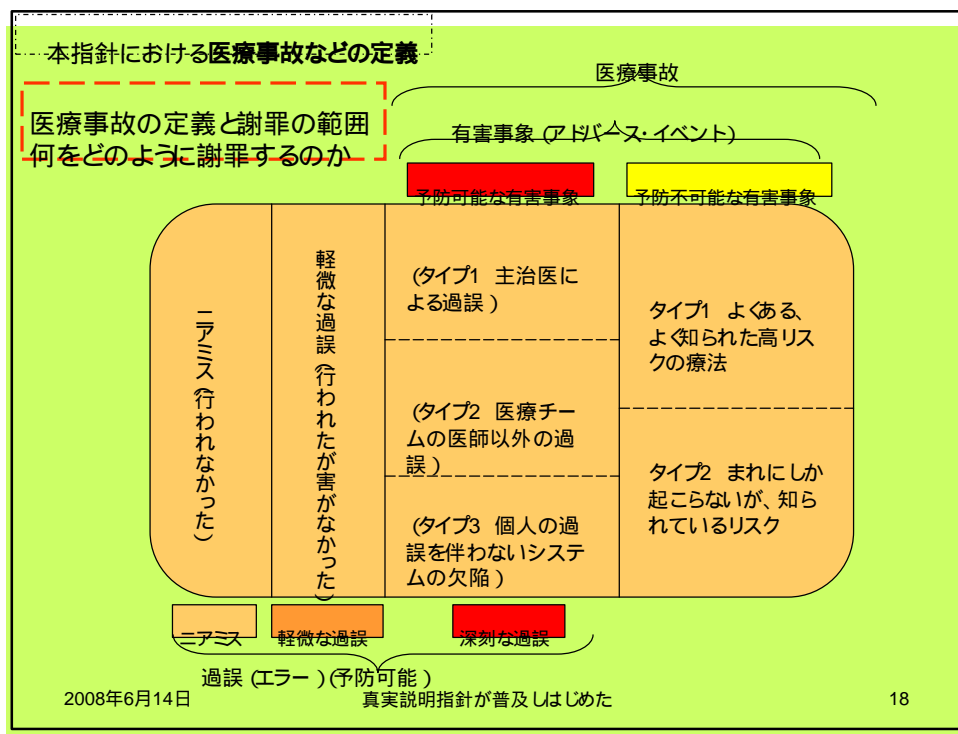
考察

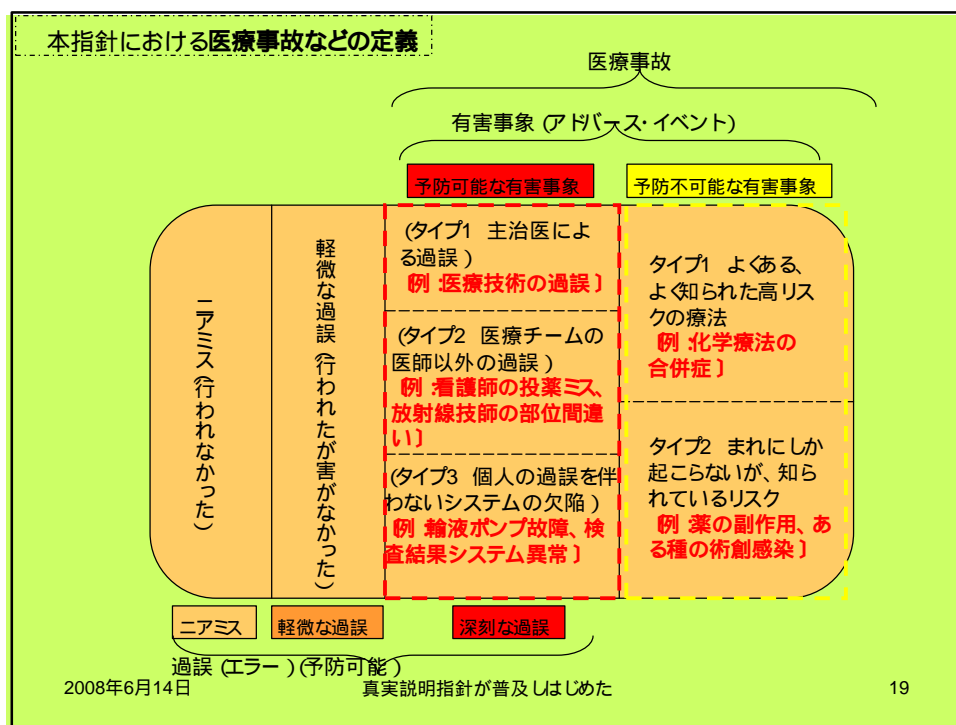
- 謝罪をしよう 日本は、もともと謝罪文化 (vs. 欧米のキリスト協的懺悔文化)
- 示談の促進 日本は、もともと示談が多い
- 日本でも謝罪法を 日本は、謝罪が証拠に使われることはほとんどない。もともと 謝罪法があるのに近い (cf. 山崎氏による研究)
- 日本に真実説明 謝罪の実践を 日本でも早くから実践者が存在する
- 真実説明・謝罪は「普遍的な原理」
- むしろ日本では浸透が早い?
- 日本型「真実説明 謝罪」の再構築
- 旧来からの示談と、これからの示談の違いは?

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

17





米国の謝罪運動における謝罪

- 医療事故が起こったら、真実を説明して、過誤の有無に関わらず、遺憾の意を表明する。
- 過誤が明らかならば、すぐに謝罪する。
- 過誤の可能性があるが不明なときは、迅速な調査を約束して、その結果、過誤が明らかになったら、謝罪する。
- 誤解に関しては、断固とした態度を取る。

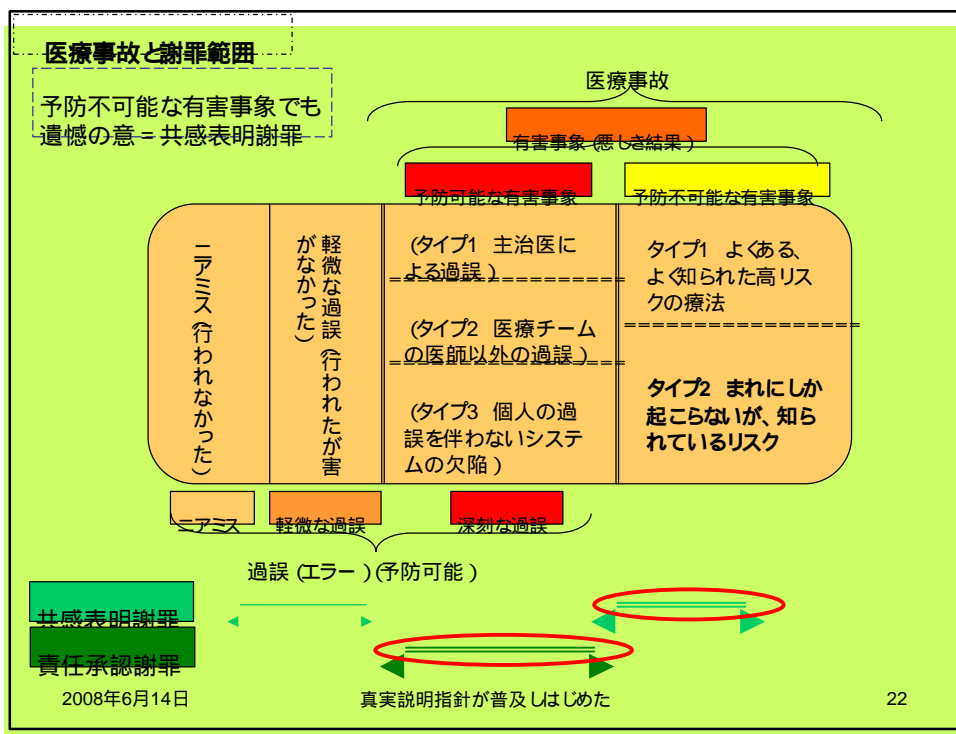
「共感表明謝罪」と「責任承認謝罪」

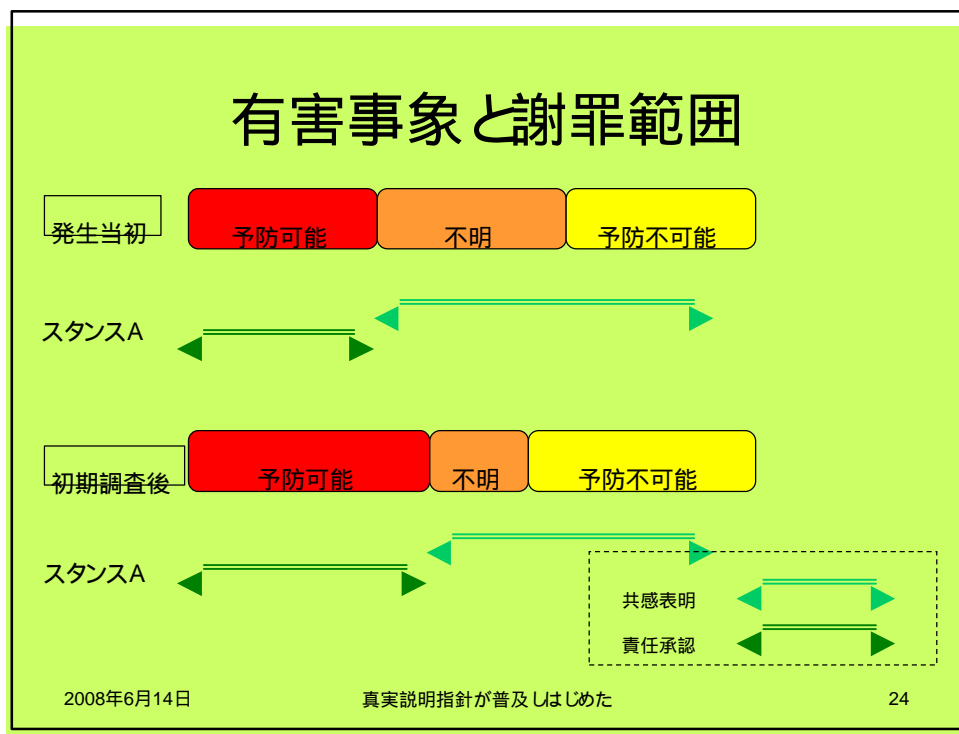
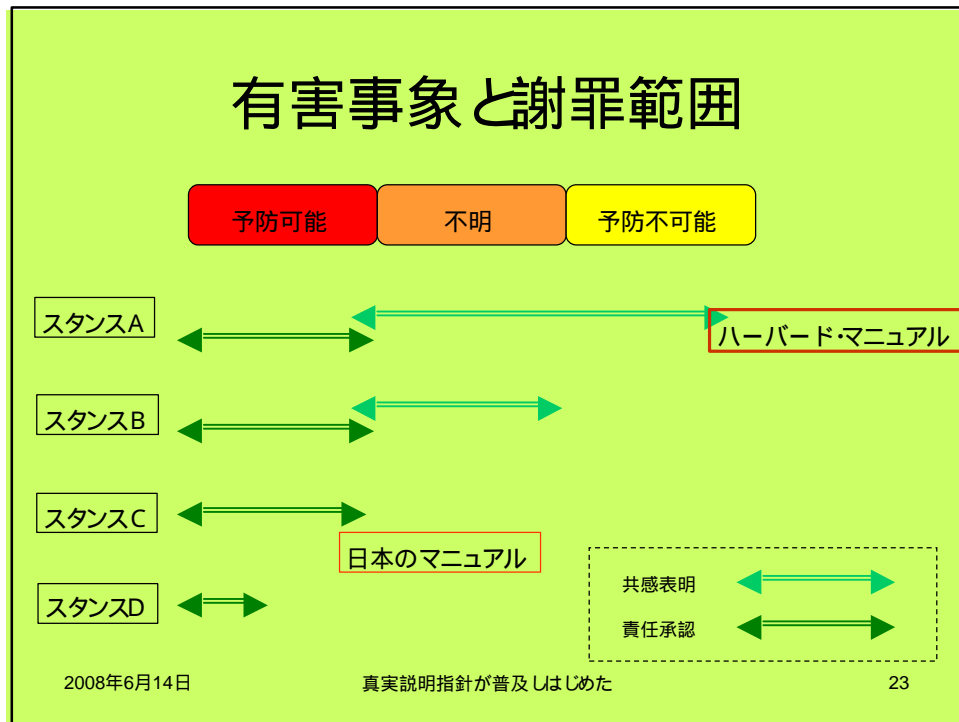
- 「共感表明」謝罪 悪しき結果が起こったことに対する患者の苦痛に対する共感からの謝罪。患者の期待に添えなかったことへの申し訳なさからくる謝罪。
- 「責任承認」謝罪 過誤があり、過誤が悪しき結果を引き起こす原因となったことを認め、その責任をも認めることを伴う謝罪。
- 遺憾の意 = 共感表明謝罪(?)
- 参考資料：医療紛争と謝罪 第1回 謝罪とは何か (和田仁孝氏) 『医療安全』2007年3月号

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

21





共感表明と責任承認の言葉

適切な言葉を開発していく必要あり

(下記は、吟味される前の例です)

共感表明]

- こんな結果になってとても申し訳なく思います。
- ミスはなく、稀に起こることですが、あなたにこんなことが起こってしまうとは、とても残念です。
- ミスがあったかどうか今の段階では分かりません。調査することになります。何か分かり次第、お知らせします。

責任承認]

- 私たちがミスを行いました。こんなことを引き起こして申し訳ありません。
- ミスが原因で起こったもので、私たちに責任があります。

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

25

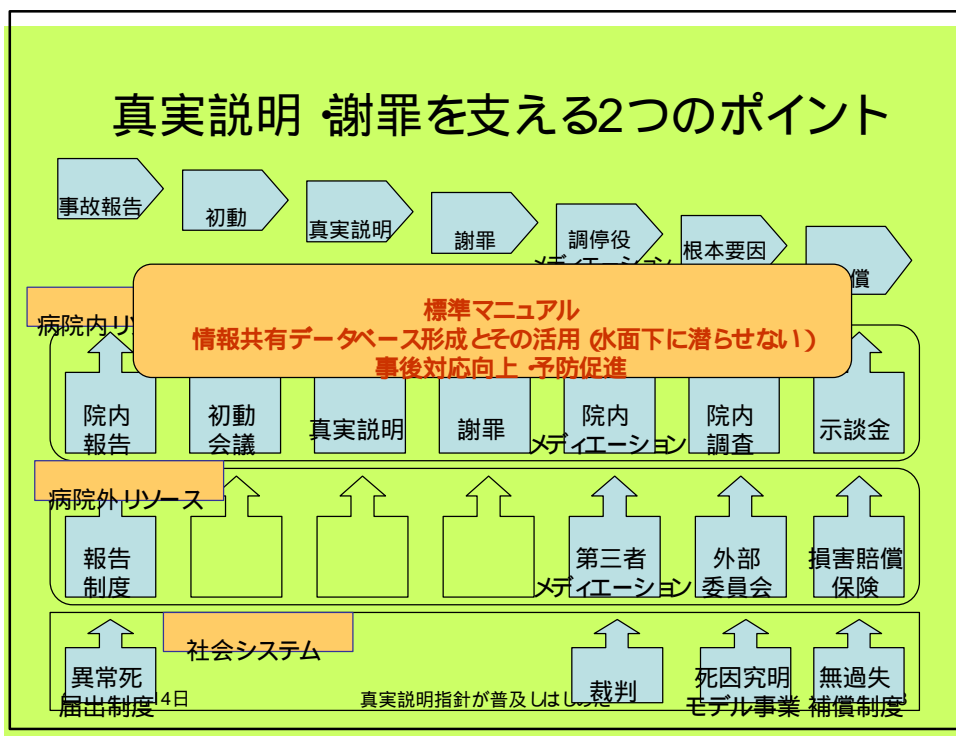
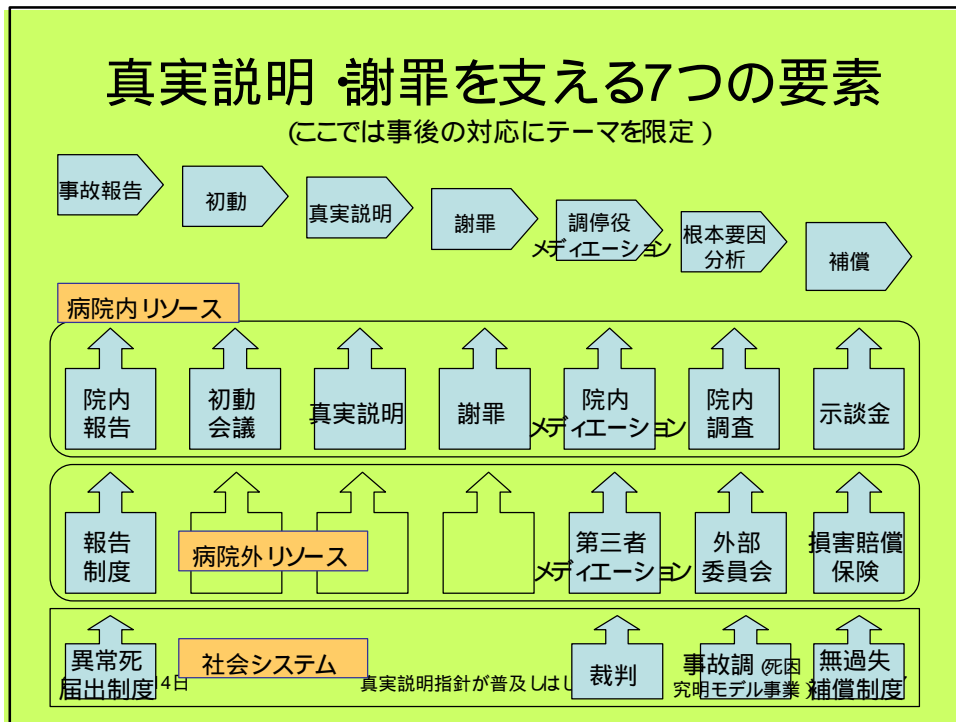
共感表明のコトバの例

- 【ある病院長のコトバの例 :医療過誤と考えられない有害事象 (予防不可能な有害事象タイプ2)に対して】 「ごめんね。こんなことになって。こんな風になるとは思っていなかった。堪忍してや」

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

26



まとめ

- 真実説明指針は、医療事故対応ひいては医療事故抑止の基盤と考えられる。
- 真実説明指針の導入が世界の潮流であり、日本でも浸透が進みはじめた。
- 医療事故対応指針の内容や医療現場での運用に格差が生じている懸念がある。
- 全病院が急ぎ真実説明指針を採用することが望まれる。
- 公的性格をもつ病院が率先することが期待される。

2008年6月14日

真実説明指針が普及しはじめた

29

医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト



Do the Right Thing (レシアン・リープ)

ありがとうございました
IZN01203@nifty.com

<http://www.stop-medical-accident.net/>